

中学校区におけるめざす子ども像 「確かな学び」「豊かな心」「健やかな体」を育みながら自他ともに尊重し、自ら考え、行動できる子ども	堺市立 八田荘西小学校
校長 今村 智也	

R6年度 重点目標

豊かな心を持ち、学ぶことに喜びを持つ子どもを育てる ー人間性豊かな子どもの育成をめざしてー

つながる ねばる 自己決定する 子どもの育成 ～ 主体的・対話的で深い学びの創造 子どもの情意面の育成を基本として～

豊かな学びの現状 教科・科目： 数年は市の平均を下回る結果が続いている。低位に甘んじている層が少ないことも課題である。発達に関する専門性、授業力の向上（指導と評価の一体化）、チーム支援、外部人材の活用等で、困り感のある児童への支援を強化、個別最適化（GIGA端末の活用等）の推進など具体的な形ではわかっていない。そのために、学校教育重点目標に挙げる「教師用グループウェアを策定し、それを指針とした全校体制で学びを展開していく。さらに、家庭学習力（自主学主力）の向上をめざして、自主学習ノートの取り組みをすすめる。自らの一歩が踏み出しにくい児童については、放課後の短時間の学びサポート体制「ぐんぐんタイム」を設定し、自分でできるように支援する。 生きる力の育成： 生活科・総合的な学習の時間における探索的な学びを発展させ、地域協働をすすめるが、学びをより生活に生かすものとするための挑戦を続ける。	豊かな心・健やかな体の現状 発達傾向が少なくない運動場がよく遊ぶ子どもが一定数いることは、学校としてのよさとしてあげられる。しかしながら、昨年度は、体力テストにおいて、全国平均を超える種目が少ない状況にあった。中・高学年の子どもは持久力面で、低学年の子どもは柔軟性と跳躍力、投げなどの運動が継続してみられている。加えて、男子と女子の運動能力差が大きくなっている傾向もつづいている。大縄やかけ足を取り組め、休養時間の外遊びの奨励などに加え、「なかまづくりによる異年齢集団」による外遊びなど、体を動かす場を様々な機会をととえて推進していきたい。総合学力プロフィールからは、「朝食をとっていない」「入眠時間のばらつき」「SNSやゲームとの付き合い方」に未熟さがみられる。家庭の協力を得ながら「みんく」、生活科・総合的な学習の時間等で学びながら、健康に対する意識向上及び、態度面の育成を図りたい。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	教科 学力 向上	「探究的な学びの場」及び「言語活動の充実」を図り、子どもたちの「生きて働く思考力・判断力・表現力」の育成を図る	●校内全体研修を年7回、公開研修を年約12回程度、学年会を週1回、Jump Up研修を2か月に1回実施し、「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学び」を創造する。 ●「自分の思いや考えたことを相手に意識して適切に表現したり受け止めたりする力」、「粘り強く課題に向かう力」、「自ら判断し自己決定して行動できる力」が発揮されている場面や成果物を掲示発表、HP、集会、学級指導等で紹介し広める。	・西っ子アンケート「授業で自分の考えを表現することができたか? (ノードに書く発表するベアやグループで話すなど)」積極的に、内容を受け止めながら、友だちの意見(考え)を聞くことができたか?」の項目 肯定回答90%以上 (前年度90%) 学習ノート ポートフォリオ ワークシート の記述内容 (各単元で設定した評価基準達成率80%以上)	西っ子アンケート 子どもの成果物	学期末 随時	○	「1学期の西っ子アンケートの結果より」「授業で自分の考えを表現することができたか? (ノードに書く発表するベアやグループで話すなど)」積極的に、内容を受け止めながら、友だちの意見(考え)を聞くことができたか?」の項目の肯定回答は、92%・94%とどちらも、目標値を上回る結果となった。学びのコンパス実現に向けて、児童が主体的に活動できる環境づくりを行ったためと思われる。2学期以降も、校内研究授業等を通して、本校の子ども達の力を育成していきたい。	◎	2学期の西っ子アンケートの「授業で、自分の考えを表現することができましたか。」の項目では、肯定回答が91%であった。「積極的に、内容を受け止めながら、友達の意見(考え)を聞くことができたか。」の項目の肯定回答は94%であった。どちらの項目でも目標値の90%を達成し、去年よりも数値が上がっている。また、学びのコンパスが実施されることを踏まえて、夏季研修で教育センターから指導主事の先生にご指導いただいた。毎回の校内研究授業でいただいたご指導を、各教員が理解し、実践したからだとする。来年度以降も学びのコンパス実施に向けて、各教員が子ども主体となるような授業作りを心がけていく。	◎	・子ども一人ひとりにそれぞれの課題と目標があり、それをまとめながら授業を行うこととはとても大変だが、教職員はよく頑張っている。 ・子どもたちが意欲的に学習に取り組めるようにするために、面白くてわかりやすい授業を進めることができるよう研修をがんばってほしい。
		「探究的な学びの場」及び「言語活動の充実」を図り、子どもたちの「生きて働く思考力・判断力・表現力」の育成を図る	●生活・総合的な学習の時間を研修教科とし、子ども自身が積極的にに行い、生きて働く思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ●児童用PCを活用し、場に応じて、個別の最適化の学びにつなげる。 ●子ども達の意欲を高めるため、成長を細やかにみとり、励ます。(読書ノート等)	・西っ子アンケート「少しむずかしいなと思うことも、あきらめずに、ねばり強くがんばれたことがありますか? (ねばる)」の項目 肯定回答85%以上 (前年度89%) ・すくすくウオッチ、全国学調にて「勉強しているときに、分らないことがあったりもやり方を変えて挑戦していますか?」総合的な学習の時間や自主学習など、自分の関心・興味・関心や学習の内容を自分で決めていたか?」の項目 肯定回答80%以上 ・すくすくウオッチ、全国学調、堺市学力調査にて「授業で本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよくしていますか?」の項目 肯定回答80%以上 ・学校図書館貸し出し数 9000冊以上 (前年度2学期末6713冊)	西っ子アンケート 総合学カプロ フィール(堺市学力調査) 図書貸し出し数	学期末 年度末	○	「1学期の西っ子アンケートの結果より」「少しむずかしいなと思うこともあきらめずにねばり強くがんばれたことがありますか? (ねばる)」の項目の肯定回答は88%であった。全国学調の結果より、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することではありますか?」の肯定回答率は、83.3%であった。児童は、問題を解決しようとする様々な方法を試していることが分かった。また、1学期の学校図書貸し出し冊数は、2548冊増え、9000冊への到達率は、28%であり、2学期以降は貸し出し冊数を増やしていく必要がある。図書館司書の先生や、図書担当の先生と連携を図り、休み時間の図書館開放を朝礼で知らせたり、図書館での読み聞かせをした本の貸し出しを薦めたりしていきたい。	○	2学期の西っ子アンケートの「少しむずかしいなと思うことも、あきらめずに、ねばり強くがんばれたことがありますか? (ねばる)」の項目では、肯定回答が89%であった。目標値は達成したが、前年度からの伸びはなかった。 全国学調の「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することではありますか?」の項目では、肯定回答が83%であった。児童は、分からないことは、教師や友だちと考えることができたり、さらに詳しく知りたいときは、本やインターネット、関心のある方法をとっている。「ねばる」の内容に関しては、目標値に達成していないので、IRTの学習方略で分けた各学年の強みとしての学習方略で、難しい内容でもねばれる児童を育成していく。 図書貸し出し冊数: 2学期終了時点で6813冊であった。2学期中に4000冊増加しており、3学期末には9000冊達成する見込みである。来年度は、1学期の段階から、図書担当や司書さんと連携し、開館日を知らせたり、読み聞かせを推進したりしていく。	○	2学期終了時点で読書量が増えたのがよかった。スマホやタブレットの普及などもあり、なかなか読書習慣が身につくにくい状況がある。学校が頼りなので、お願いしたい。
		「探究的な学びの場」及び「言語活動の充実」を図り、子どもたちの「生きて働く思考力・判断力・表現力」の育成を図る	●授業参加支援として、持ち物をそろえる事を中心に置き、スムーズに授業に取り組めるようにする。 ●筆字や発表の奨励、ベアやグループでの相談時間の保証、構造的な板書で、授業への参加意欲、参加持続力を高める。 ・自己決定力、ねばり等の「自ら学ぶ力」を育成するため、全ての学年で、自主学習ノートに取り組む。 ●自主学習ノートを、校内掲示板やHP、全校集会で定期的に紹介する。(自主学習コンテスト等)	・西っ子アンケート「学習に必要なものは忘れず学校に持ってきたか?」の項目 肯定回答85%以上 (前年度84%) ・すくすくウオッチ、全国学調にて「挑戦中ではあるが集中している」の項目 肯定回答90%以上 (前年度95.5%) ・西っ子アンケート「家庭での学習に進んで取り組むことができたか?」の項目 肯定回答85%以上 (前年度83%) ・すくすくウオッチ、全国学調、堺市学力調査にて「ものごとをさいごまでやりとてうれしかったことがある」の項目 肯定回答80%以上	西っ子アンケート 総合学カプロ フィール(堺市学力調査) 子ども観察	学期末 随時	△	1学期の西っ子アンケートの結果より、「学習に必要なものは忘れず学校に持ってきたか?」の項目の肯定回答が90%であった。一方で、教師の持ち物管理の結果では、72%と、子どもが自分自身で思っているよりも、実態としては持ち物が揃っていない事があることが分かった。児童自身も、持ち物管理を継続して実施し、児童自身が持ち物に対して関心を持てるよう努めていく。	△	2学期の西っ子アンケートの「学習に必要なものは忘れず学校に持ってきたか?」の項目では、肯定回答が92%であった。持ち物管理を実施していることもあり、児童自身は必ず持ってきたよう意識していることが分かった。一方で教師の持ち物管理の結果では、70～80%の結果になっている。児童にとっての持ち物の認識が、年齢・発達段階と年齢・発達・水色などの細部にわたって認識が不足し、大きな視点と不足している可能性がある。児童が学校生活の中で、中まですべての持ち物を管理し、活用できる。持ち物の管理で「授業中は集中していますか。」の肯定回答は83%であり、目標値を上回っている。来年度もその結果を維持できるように、集中できる環境づくりを行っていく。	○	・忘れ物や道具の準備については、家庭の協力が不可欠なので、保護者との連携を大切にしたい。 ・授業態度について、子どもたちが頑張っていることがよかった。
		「探究的な学びの場」及び「言語活動の充実」を図り、子どもたちの「生きて働く思考力・判断力・表現力」の育成を図る	●授業参加支援として、持ち物をそろえる事を中心に置き、スムーズに授業に取り組めるようにする。 ●筆字や発表の奨励、ベアやグループでの相談時間の保証、構造的な板書で、授業への参加意欲、参加持続力を高める。 ・自己決定力、ねばり等の「自ら学ぶ力」を育成するため、全ての学年で、自主学習ノートに取り組む。 ●自主学習ノートを、校内掲示板やHP、全校集会で定期的に紹介する。(自主学習コンテスト等)	・西っ子アンケート「家庭での学習に進んで取り組むことができたか?」の項目 肯定回答85%以上 (前年度83%) ・すくすくウオッチ、全国学調、堺市学力調査にて「ものごとをさいごまでやりとてうれしかったことがある」の項目 肯定回答80%以上	西っ子アンケート 総合学カプロ フィール(堺市学力調査) 子ども観察	学期末	△	1学期の西っ子アンケートの結果より、「家庭での学習に進んで取り組むことができたか?」の肯定回答は、89%であった。2学期より、自主学習展覧会も行い、より家庭学習の習慣をつけていくことを目標として取り組んでいく。	△	2学期の西っ子アンケートの「家庭での学習に進んで取り組むことができたか?」の項目では、肯定回答82%であった。児童は、家庭でなかなか学習に取り組む意欲が湧かなかった。後回しにしてしまいがちであると考えられる。今後自主学習だけでなく、家庭での学習(宿題やドリルや予習・復習など)の重要性や、興味のあることを家で調べたり、おうちの人間に聞いたりすることを啓発していく必要がある。	△	・家庭学習についても家庭の協力が不可欠なので、保護者との連携を大切にしたい。 ・自主学習を掲示することで子どもでも参考にしたりやる気が出たりするの続けてほしい。
豊かな心	集団 づくり	よき生活のために自分で判断し(ねばる・自己決定)、協力しつながら育つ(つながり)集団の育成	・西っ子の子のやくそくや生活目標を守ること、意識することを徹底し、ルールの意義を理解し、よさを感じられるようにする。【ねばる】【自己決定】 ●生活目標を朝礼で周知し、さらに教室掲示する。毎月1回のふり返りの実施。 ・学校内外を問わず、自分たちの生活に関わりのある人物への気持ちのよいあいさつができる子どもの育成。【つながり】 ●下校指導、全校朝礼を通して、あいさつができるよう声かけを実施。毎月のふり返りを通して意識付けの強化。 ・「なかま」(縦割り遊び)の時間を通して、異学年の子どもと交流し、多様性を受け入れ、自分のよさを発揮する喜びを味わえるようにする。【つながり】【自己決定】 ●毎週金曜日「なかま」の時間を実施。月初めの金曜日は昼休み、他は朝の時間に実施。	西っ子アンケート「西っ子の子のやくそくを守っている」の項目 肯定回答90%以上 (R5年度2学期86%) 西っ子アンケート「生活目標を守ることができたか」の項目 肯定回答90%以上 (R5年度2学期89%) 生活目標の振り返り(児童・教職員) 生活目標の振り返り、あいさつの項目 肯定回答 年間平均 90%以上 (R5年度最終88%) 西っ子アンケート「なかまの時間は楽しい」の項目 肯定回答95%以上 (R5年度2学期94%)	西っ子アンケート 児童ふり返り 教員ふり返り 子ども観察	学期末 月末	○	「西っ子の子のやくそく」「生活目標」の項目の肯定回答が両方89%となっており、概ね目標の数値を達成している。また例年、夏休み明けに増加傾向にあった生活の荒れやアクサセリへの着用に關しては減少しているが、染髪が多くみられる。保護者への協力のお願いを伝えている。 あいさつについてのアンケートから得られた肯定回答の割合は89%となっており、高学年の肯定回答の割合が減少している。担当教員が登下校の際に門のあいさつを行い、「あいさつは当たり前」の目をし、指導を徹底し入れている。 「なかま」の時間は楽しいという項目についての肯定回答は91%であった。否定的意見であった児童数は約20人となっている。なかまの時間を朝と昼に分けたことで、参加する機会が増加につながっている。形だけにならないように、繋がりがある活動を目指したい。	○	西っ子アンケートの結果、「西っ子の子のやくそく」の項目の肯定回答が89%の項目の肯定回答となっており、概ね目標の数値を達成している。但し、生活目標については達していない。登下校の際の赤白信号の着用、遅刻登校の減少など、改善は見られる。但し、登下校での自転車通学、放課後の遊び方など、やくそくの徹底がまだ少ない点も見られる。朝礼での啓発、学級での指導による。西っ子の子のやくそくの周知や、登下校時に門に立って指導を行う、地域との連携など、見守る機会を増やしていきたい。	○	・子どもたちが落ち着いてきているのは、先生方の指導のおかげです。ありがとうございます。集団生活をするうえで、ルールを守ることが大切なことなので、指導は大変だと感じ、引き続きお願いいたします。 ・以前より、挨拶してくれる子が増えてきたが、自分から挨拶できる子になってほしい。 ・上の学年を本手として見たり、下の学年の面倒を見ることで優しさを発揮していることができていますという意味で、「なかま」の活動はとても良い活動だと思う。引き続き、取り組んでほしい。
		よき生活のために自分で判断し(ねばる・自己決定)、協力しつながら育つ(つながり)集団の育成	・西っ子の子のやくそくや生活目標を守ること、意識することを徹底し、ルールの意義を理解し、よさを感じられるようにする。【ねばる】【自己決定】 ●生活目標を朝礼で周知し、さらに教室掲示する。毎月1回のふり返りの実施。 ・学校内外を問わず、自分たちの生活に関わりのある人物への気持ちのよいあいさつができる子どもの育成。【つながり】 ●下校指導、全校朝礼を通して、あいさつができるよう声かけを実施。毎月のふり返りを通して意識付け									

校長(年度末)

○「つながる なびる 自己決定できる子」の育成にむけての取り組みについては、成果を感じているが、一方で自分から学びに向かう点では課題が残っている。来年度は自ら学びを進めていく「子のコンパス」を意識した取り組みを行ってきたい。

○子どもたちの自己肯定感情が向上していることは、一人ひとりの良さを見つける学年・学級指導の成果として嬉しく思う。

○様々なトラブルなどがあるが、比較的に落ち着いているのは、地域・保護者・学校が三位一体となり、協力しあって子どもたちのために取り組んでいるからである。地域や保護者の方のご協力なくしては達成できない目標なので、感謝申し上げるとともに、今後も一致団結して取り組んでいきたい。

○今年度より始まった八田荘中学校群制度で、八田小生や八田中生との様々な連携ができた。今後も連携を生かして子どもたちの成長につなげていきたい。

「八田中学校評議会について期待している。ICT活用が進むこと、教科担任制、少人数クラスの充実の実現を希望する。」
 「『西つ子まつり』(2年生・6年生が生活科や総合的な学習の時間での学びを基にしたお店を出し、遊びに来てもらう活動)では、それぞれ学年の学びがわかるし、お客さんを楽しませるための様々な工夫がみられる素敵な活動だった。なかなかないような異学年交流はとてもいい活動だと思うので、続けてほしい。」
 「子どもたちの学びを保証するために、ICTを使ったり、楽しく学習できるような教材など、工夫をしてくれている。また、生徒指導面でも丁寧に対応してくれている。教職員には本当にありがたいです。」
 「教職員が元気で子どもたちのために仕事ができるように、働き方改革を進めてほしい。」